

第4学年松組 音楽科学習指導案

指導者 T1 鈴木 淳子
T2 高橋 宗生

1. 題材名 「ふしのとくちょうを感じとろう」

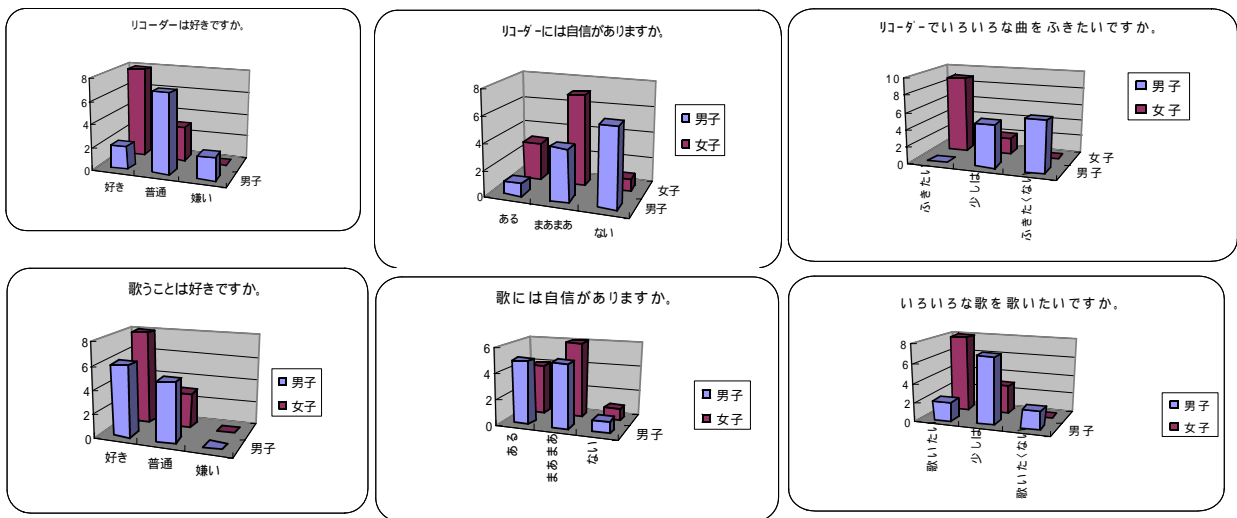
2. 題材の目標

- レガートやスタッカートなどの旋律の特徴を感じ取り、それを生かして楽器を演奏をすることができる。

3. 子どもと題材 子どもについて

明るく元気で、物事に真剣に取り組み活動することのできる子どもの多い学級である。歌うことが好きで、朝の会でも大きな口を開けて一生懸命歌う姿が多く見られる反面、音楽を苦手と感じている子どもも中にはいる。

5月の初めに、子どもたちにアンケートを行ったところ、「歌」が好きで自信もあり、様々な歌に挑戦したいという意識がある一方、「リコーダー」に関しては苦手意識を抱いていることがわかった。また、女子はリコーダーが好きで、様々な曲にも挑戦したい気持ちはあるが、指づかいに自信がなく、男子は、うまく吹けないために挑戦する意欲がないだけでなく、リコーダーが嫌いと答える子どもまでいることがわかった。不得意とする理由は「指づかいがよくわからないから」「楽譜が読めないから」といった回答が多かった。また実際に音楽の授業でリコーダーの演奏をしてみても、指の動きが止まっていたり、間違った指づかいをしてしまったりする子どもが目についた。



題材について

この題材は、学習指導要領の内容「B鑑賞(1)イ 主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素に気を付けて聴くこと。」「A表現(2)イ 拍の流れやフレーズ、強弱や速度の変化を感じ取って、演奏したり身体表現をしたりすること。」に関わる学習である。「鑑賞」においては、旋律を特徴づける様々な要素の中から、「滑らかなふし」と「歯切れのよいふし」という対照的な二つを取り上げ、「表現」においてその二つの特徴を生かしながらリコーダーで演奏する活動を行う。教材は学習指導要領の内容「A表現(1)イ 八長調の旋律を視唱したり視奏したりすること」にある通り、八長調の曲を扱うが、「たなばたさま」においては演奏しやすい音域を考慮してト長調とし、調号を使わずに演奏できるようにアレンジして用いる。特徴が比較的分かりやすいこと、調号を使わない教材を扱うこと、そして親しみのある曲も扱うという点で現段階の子ども達にふさわしい題材であると考えられる。苦手意識をもつ子どものことを考慮して、この題材では「滑らかな」と「歯切れのよい」の二つの要素のみに着目して取り組むが、「タンギングをして演奏すること」「サミングについて理解し演奏すること」など基礎的な技能につい

でも身につけさせていきたい。また、どの曲にも副次的な旋律があることから、独奏だけでなく、重奏にも挑戦することによって意欲的に取り組むことができると思う。

指導にあたって

どんなに特徴があってわかりやすい曲でも正確に演奏できなければその特徴を表現することは難しい。特徴を生かし、正確に演奏できるよう、次の5点に留意して指導していく。

第1に、教師の範奏を聴かせ旋律を覚えさせるとともに、生の音楽に触れさせることで意欲を持たせる。第2に、再生機能付き電子オルガン（以後SEと呼ぶ）を活用し、個人練習をしながら自由に旋律を確かめられるようにする。第3に、チャレンジカードを活用し、達成感を味わいながら着実に演奏技能を高められるようにする。1つの楽曲を8～10の節に分けて（1つの節は2小節程度）その節ごとに合格したらチャレンジカードにシールをはっていき方法で学習を進める。8または10のどの節からでも挑戦できるようにし、何枚かシールがたまると、今度は聴く役になり友達のよさを見つけたり、アドバイスしたりするという機会も持つ。回数を重ねるうちに、リコーダーを苦手とする子どもでも、達成感を味わいながら活動を進められるものとする。第4に、チャレンジタイムにおいては教師2人で指導にあたり、一人一人に直接言葉をかける機会を多くする。第5に、めあてをたてる際に「サミング」「歯切れよく」「なめらかに」など重要な要素を紹介し、または発見させながら自分のめあてをたてるようにする。

以上の5点に留意し正確に音がとれたことを見届けてから子どもたちにまかせ、表現を工夫していくことができるようにしていきたい。

4. 音楽科の研究主題との関わり

研究主題「豊かな感性をはぐくみ、喜んで音楽活動をしよととする子どもを育てる指導」 研究の内容

基礎基本の確実な定着を図る指導計画を立てる。
子どもの心に残る教材を選択する。
表現の場を設定するなど、表現する喜びを味わわせる指導法を工夫する。
学んだり、表現したりする意欲が高まるような評価の工夫をする。

子どもたちがリコーダーを演奏して楽しい、または嬉しいと感じるのは、まずその曲が吹けたという達成感から始まると考える。直接教師の前でリコーダーを演奏し、褒められたりアドバイスを受たりして、再度チャレンジするというシステムをとることで、1単位時間の中でやり直しのきく、自分自身の伸びも実感できる学習を目指したい。

また、終末にリレー奏を行ったり、学習後に七夕の日などに1年生へむけて「たなばたコンサート」を催すなど表現の場を設定し、表現することの喜びを味わわせたい。子どもたちが意欲的にリコーダーに取り組み、身につけた技能を生かしのびのびと表現できるよう支援していきたい。

5. 題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能	エ鑑賞の能力
歌唱				
器楽				
創作				
鑑賞				
題材の評価規準	意欲的にリコーダーの演奏に取り組もうとするとともに、旋律の特徴を生かした表現に関心をもっている。	「滑らかな感じ」や「歯切れのよい感じ」といった旋律の特徴を感じ取り、その特徴を意識して表現したりしている。	「滑らかな感じ」や「歯切れのよい感じ」といった旋律の特徴を生かしてリコーダーを演奏している。	主な旋律の特徴について気を付けて聴く。 友達の演奏を、良いところを見つけたり、アドバイスする点を見つけたりしながら聴く。